



第2633回 例会

2016. 3. 31

会長あいさつ



関口 和夫会長

週報 No.2072

発行 2016年 4月 7日

会長 関口 和夫
幹事 藤村 作
副会長 久保田 勲
副幹事 樋口 雅之
編集責任者
クラブ広報委員長 長沼 大策

ビジターゲスト

第2770地区 青少年交換学友
2013-14年 ブラジル派遣
松本 怜己さん
(スポンサークラブ 大宮中央RC)

第2550地区 青少年交換学友
2012-13年 フランス派遣
増田 碧さん
(スポンサークラブ 足利わたらせRC)

4月14日 卓話 門崎会員
4月21日 クラブ協議会
4月28日 卓話 上尾高校
インターアクト部

皆さんこんにちは。本日も、ご出席ありがとうございます。
青少年交換学友の増田碧さん、松本怜己さんようこそおいで頂きありがとうございます。朝霞市の女子中学生が、ご家族のもとに戻る事が出来たこと、大きなニュースでした。例会にご両親がお見えになり、卒業式までに戻りたいと話されていたことが実現しました。ご両親の、思いと祈りが解決につながったと思います。拉致問題も、早期の解決を望みます。

さて、皆さん今回公衆電話からの連絡が話題になりました。公衆電話について考えてみたいと思います。公衆電話は明治33年に最初に設置され昭和26年より委託公衆電話が登場しました。赤電話、青電話、黄色電話が登場して、カラフルにかつ便利になりました。しかし、携帯電話の普及と共に公衆電話の設置は、現在減少しています。磁気カード公衆電話は、平成14年に52万4千台あったものが、平成24年には21万台と半減しました。これに伴い、子どもや若者の中に公衆電話が使えないと言う現象が起きています。まず、ほとんどのコンビニに公衆電話が設置されていません。公衆電話を探すことが、一苦勞です。また、テレホンカードが売っているところが少なくなっています。そこで硬貨で電話をかけることになります。ここで、硬貨を入れるタイミングがわからない人がいます。硬貨を入れることはわかって、ダイヤルする前か後なのかかわからないようです。警察や消防署など緊急の電話をかける時に、お金が足りないことも知らないことがあります。公衆電話に緊急ボタンがついており、ボタンをおして「110」や「119」をかけることができます。また受話器を取ってお金を入れなくても「プー」と音のするデジタルタイプなら、そのまま緊急ダイヤルを無料でかけることができます。いざという時のために、公衆電話の使い方を再確認する必要があると思います。

また、携帯電話の普及により電話番号を覚えていないことが多いようです。家の電話と自分の番号はわかって、家族の携帯電話番号は覚えていない人が多いと思います。この為、家族などの電話番号は手帳にメモしておくことを、習慣にしておく必要があると思います。

ライフスタイルの変化に伴い、今まで出来たことがいつの間にか出来なくなっていることがあります。社会の変化に対応できるように、備えていなければならないと感じました。皆さんも、準備をして頂ければと思います。以上をもちまして、会長挨拶とさせていただきます。

幹事報告

藤村 作幹事

◆4月のロータリーレートは1ドル=116円です。
◆さいたま中央RCから創立50周年記念事業ポリオ撲滅チャリティーコンサートにお越しいただきありがとうございました、という感謝の手紙が届いています。
◆去年まで上尾に青少年交換留学で来ていたパーカー君の、上尾高校の卒業記念アルバムができあがりました。見た方は幹事までお願いします。
◆『あびお』の「ロータリーの窓」に2月に完成披露を行った認知症施設にオープンテラスのウッドデッキ寄贈の模様を掲載しました。
◆先日卓話をしていた島崎英子さんの絵画展に行ってきましたら、300名以上の方がお越しいただいたそうです。ご来場いただいた方々、ありがとうございました。



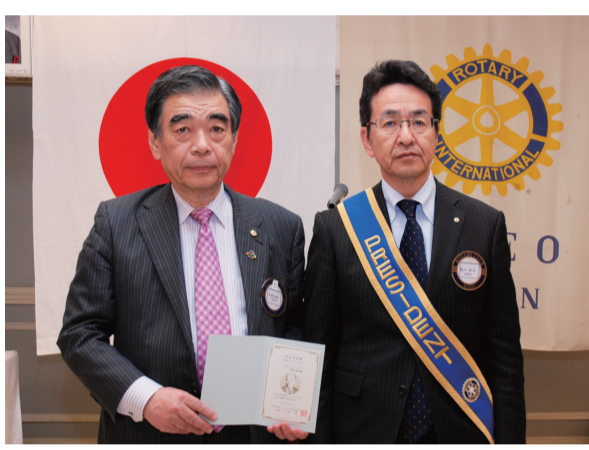
委員長報告

社会奉仕委員会 野瀬将正副委員長

来週は献血運動になります。当番表がFAXで届いていると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

米山功労者表彰

第24回メジャードナー 大塚信郎会員



パーカー・ハミルトン君が載っている上尾高校の卒業記念アルバムが届きました。



『あびお』4月号ロータリーの窓に、認知症施設にウッドデッキ寄贈 完成披露の模様を掲載しました。



例会主題～卓話

青少年交換プログラムについて

地区 青少年奉仕部門
青少年交換委員会 委員 樋口 雅之会員

青少年交換プログラムについて概要をお伝えいたします。同プログラムは1年弱、交換留学をするもので、高校生1年間でいろいろな貴重な体験をして、ひとまわりもふたまわりも大きくなって母国に帰るプログラムです。1年弱とはいってもまずは派遣候補生に選ばれてから1年間のオリエンテーションを受け、それから実際に1年間の留学をして、帰ってからは青少年交換学友(ROTEX)ということで、次に海外へ行く後輩のため、また海外から日本に来ている外国人の留学生のための相談相手になるなど、派遣高校生の頃から数えますと実質は3～5年間、ロータリーに携わっていただいていることになります。この青少年交換プログラムが始まったのは昭和47年(1972年)です。当初は世界中のロータリアンの間でお互いの子供を交換留学させあつて育てようという主旨でした。現在も実際にロータリアンのお子様方が交換留学しています。現在の2770地区の状況ですが、本年度は21名の派遣生が世界中に留学し、また同じく21名の来日学生を受け入れていて、地区内の各クラブさんに預かっていただいています。当地区では今までに累計約500組の交換をさせていただいています。



来日学生に参加していただくプログラムには、ほぼ毎月オリエンテーションがあり、日本語教室、研修などのほかに、毎年2月に菅平にスキーツアーに行き、3月に広島・京都・奈良ツアーに行っています。今回、栃木県の2550地区からも来日生とROTEXの方に参加いただいて、いつも以上に楽しいツアーに行ってきました。その折りに、増田さんと松本さんに上尾クラブの例会で留学体験をしてくださいませんか、ということでご依頼しましたところ、ご快諾をいただき本日お越しいただきました。貴重な留学体験談を披露していただければと思います。それではどうぞよろしくお願いいたします。

青少年交換留学 体験談

第2770地区 青少年交換学友(ROTEX) 松本怜己さん 2013-14 ブラジル派遣 スポンサークラブ 大宮中央RC

皆様こんにちは。私が留学した先はサンパウロ州の、自然豊かなソコホという町です。酪農業が盛んな町でした。日本ととても違うのは馬が多く、馬を交通手段として使っている人がいました。レジャーや休暇を過ごす町として有名で、キャンプ、乗馬、ラフティング、グライダーなどが楽しみに週末には大都市から多くの観光客がきます。小さな商店街があり、第1ホストファミリーの家はメインストリートに面していて便利でした。ホストマザーは弁護士をしていますが、その他に牧場・農場を持っていてコーヒーなどを出荷していました。ブラジルの食事は、米+牛肉+豆の組み合わせで、昼食がメインで、夕食はあまり食べずにパンとスープだけでした。第1ホストファミリーは裕福なお家で、プールもあり、毎週末には陽気にパーティーをしていました。海やオペラなどにも連れていって週末はよく乗馬です。第2ホストファミリーは乗馬が趣味のご家庭でよく乗馬に連れていってもらいました。学校は7:30から12:30までと午前中で授業が終了してしまいます。午前中で授業が終わるため給食はなく、家に帰って自宅で昼食をいただきます。制服はジャージのようなスタイルでした。



お世話になったソコホロータリークラブは、少人数でアットホームな雰囲気のクラブでした。水曜日にダウンタウンにあるアパートの集會場で例会が行われ、仲良くさせていただきました。空のペットボトルで巨大なツリーを、ロータリークラブが企画制作していました。このクラブがある第4590地区は、サンパウロ市の4430地区と



Expo Brasilという名前の合同地区で、留学生が100以上いました。オリエンテーションやシティツアーなどのイベントが行われ、ノースイーストツアーではブラジルを23日間、貸し切りバスで移動しました。またアマゾンツアーにも参加し、アマゾン川を探検しながら、ボートの上で9日間生活しました。

留学を終えてからすでに2年ほど立ちますが、ブラジルに留学させてもらったことが私の日々の生活の土台になっていることに気づきました。そして感謝の気持ちを忘れず、今は青少年交換学友として、来日学生や派遣高校生のサポートに全力を注いでいます。私と同じように、素晴らしい経験が海外でできる生徒が1人でも多くできるよう、今後もがんばっていきたくと思います。

第2550地区 青少年交換学友(ROTEX) 会長 増田 碧さん 2012-13 フランス派遣 スポンサークラブ 足利わたらせRC

皆さんこんにちは。私が行ったのはフランスのノルマンディー地方で、パリから電車で20～30分と交通の便がよい地域でした。芸術の都パリには、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館などがあり、学校帰りに友達と観光を楽しむようなことをしていました。モンサンジェルムノルマンディー地方にあります。モネの庭園というのが私が住んでいたバーノンという町の名物観光地です。高校は、フランスは6週間学校に通い、2週間パカンス、という繰り返しで、しかも学校がある週でも週4日しか通いません。休みばかりで本当に素晴らしい学校生活を送らせていただきました。



私はボランティア活動も行いました。ポリオワクチンを必要とするアフリカの子供のためにお花を売ったら、たくさんの方が多くをくださりました。フランスは寛大な心をもった方が多くいるように思いました。手足も不自由な子供たちのためのチャリティーコンサートも開催させていただき、楽器やダンスができる高

校生が演奏を披露して、入場料を寄付しました。このような私の活動が新聞に載り、一躍有名になりました。バストリップにも参加しフランス、スペイン、ベルギー、イタリア、オーストリア、ドイツ、チェコ、スイスをバスで1カ月近くかけて回りました。EU圏内のためパスポートなしで入れ、また18歳未満の学生は無料で美術館や資料館に入れました。

食事は夕飯がメインで、夕刻5時頃からは、夜中の2時頃まで喋りながら飲んでいました。

ロータリークラブのご支援のもとに留学して、私の人生が変わったと言っても過言ではないくらいです。世界80カ国以上の国の学生がこのプログラムに参加しているため、世界中にお友達がいいます。いまROTEXとして派遣候補生のお手伝いをしているのですが、1人でも多くの高校生に世界を知ってもらいたいという思いで活動しています。これからはロータリークラブの皆様と一緒に、世界と日本の架け橋になれるような活動をしていきたいと思っています。



松本さん、増田さんと卓話ありがとうございました！

スマイル
関口会長/藤村幹事/樋口副幹事/武重会員/岡野会員/大塚信郎会員/小林会員/富永会員/井上会員/村岡会員/大塚崇行会員/島村会員/深澤会員/齋藤哲雄会員/野瀬会員/長沼会員/齋藤修弘会員/坂本会員/春日会員

出席率	出席人数 37	出席率 (%) 51.35
出席率	出席人数 19	
欠席	欠席数 18	
前々回確定修正(%)	81.08	欠席数 7 (M・U) 10

